

自己評価書

四日市市立 桜こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	学びに向かう力を育む	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの発達や興味を捉え、思いが実現する楽しさを保育者も一緒に感じながら環境をつくっていったことで、夢中になって取り組む子どもの姿や、遊びがひろがっていくことにつながった。園の教育・保育に関するアンケート結果において、「身近にある物や遊具で試したり、工夫したりして遊べるようになりましたか」という項目は、「そう思う」の回答が75%と、高い評価が得られた。 ・子どもたちの気持ちを大切に取組を進める中で、自分の気持ちを安心して表現し、意欲的に遊ぶ姿につながった一方、「聴く」力については取組に工夫が必要であった。 	
重点目標 2	あたたかい心を育む	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の思いに寄り添い保育を行っていくことで、子どもが安心して自分の思いを出せるようになった。また、遊びの中で、保育者や友だちとふれあい、一緒に楽しむことを大切にしていって、人と過ごす心地よさや楽しさを感じることができた。 ・日々の生活や遊び、ペア活動や行事など、様々な場面での異年齢の関わりを大切にしながら保育を進める中で、優しい気持ちや憧れの気持ちなどが育った。園の教育・保育に関するアンケート結果においても、「先生や友だちとかかわる嬉しさや楽しさを感じていますか」という項目で「そう思う(75%)」「おおむねそう思う(25%)」と、回答した保護者が合わせて100%となるなど、高い評価が得られた。 	
重点目標 3	健やかに生きる子どもの育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・サーキット遊びやふれあい遊び、さくらんぼリズムなど、子どもたちが「やってみよう」と、取り組む環境を継続してつくっていったことで、体を動かすことを生き生きと楽しむ姿につながった。園の教育・保育に関するアンケート結果においても、「体を動かす遊びに興味を持つようになりませんか、または体を動かして遊ぶことが好きになりましたか」という項目で「そう思う(87%)」「おおむねそう思う(13%)」と、回答した保護者が合わせて100%となり、高い評価が得られた。 ・基本的な生活習慣においては、歌いながら手を洗うなどあたたかい雰囲気や大切にしなが、なぜ必要なのかも伝えていった。その結果、自分でしようとする気持ちが育ち、自信にもつながった。一方で、片付けに関しては、環境等の工夫を検討していく。 ・園の畑を活用したり、個人の鉢で栽培したりするなど、年間を通じて栽培活動を行った。植物への関心や、育てる楽しさを感じる姿につながった。 	

重点目標 4	保護者や地域との連携・子育て支援の充実	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と、毎日の登降園時に子どもの姿を伝え合い、一緒に成長を喜ぶなど対話を大切に関係づくりを行った。また、日々の保育をドキュメンテーションとして掲示したり、おたよりに写真を活用したりするなど、園での取り組みや、様子をわかりやすく伝えることで、保護者の安心につながった。 ・地域と連携した芋ほりや焼き芋などの取り組みや、地域の方の絵本の読み聞かせ、あそぼう会との交流などに参加し、子ども達の経験をより豊かにすることにつながった。また、今年度は近隣の小学校との子ども同士交流も再開し、学校への興味・関心の高まりと共に、就学について安心や期待が膨らむような取組を進めることができた。 	

2 改善方針

・「聴く」力を育むためには、「聴いてもらう」経験が大切である。各年齢の発達を踏まえ、職員間が連携をとり、ねらいや環境の設定など話し合いながら、見通しをもって取組を進めていく。
 ・基本的な生活習慣の中で、子どもたちが意欲的に取り組めなかった部分に対して、子どもたちの思いに立ち、理由を探り、時には子どもたちと一緒に対策を考えていく。
 ・園だからこそ経験できることや、友だちと一緒にだからこそついていく力がある。今後も子どもたちにとって豊かな経験となるよう、体験授業や地域や近隣の小中高など、様々な方面と連携をとって取り組みを進めていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 八郷こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	しなやかな心と身体づくりを推進する	4
主な方策 成果と課題	<p>・園で安心して過ごせるように、子どもの気持ちを受け止め、寄り添うようにした。園が安心して過ごせる場所になり、遊びや友だちに興味が向くようになった。</p> <p>・基本的な生活習慣の自立のために、日々の積み重ねを大切に、一人一人に合わせた援助の仕方を考えた。また、することの意味を知らせていくことで、自分のことは自分でしようとする気持ちが育ってきた。</p> <p>・身体づくりのために、年齢ごとの成長や発達に応じた遊びができるように体操、サーキット遊び、リズム遊びなどに取り組んだ。楽しみながら体を動かす経験ができ、体を動かすことが好きになった。多様な運動遊びができる環境設定の工夫や散歩などの園外活動の充実を継続的に進める。</p>	

重点目標2	主体性を育む	3
主な方策 成果と課題	<p>・夢中になって遊べるように、子どもの興味、関心を知り、遊びを実現できるように環境設定をしたり、遊びの提案をしたりした。活動が充実することで、いきいきと遊ぶ姿や友だちとの関わりが見られた。遊びがさらに充実するために、遊びの振り返りを行い、環境設定の見直しや再構成、教材準備を、複数の保育者で考える機会を持つていく。</p> <p>・考えたり、工夫したりする経験ができるように、自分はどうしたいか考える機会を作るようにした。「～してもいいですか」と聞くことが多かったが、「～したいから出してください」などと言うように変わり、自分たちで遊びを考え出す楽しさを味わえるようになった。</p>	

重点目標3	人とかかわる力を養う	4
主な方策 成果と課題	<p>・4、5歳児でなかよしペアを作り、1年通して交流を行った。また、5歳児が夏祭りやお店屋さんを催して交流した。交流から憧れの気持ちや思いやりの気持ちを持つようになった。行事の交流が中心だったため日常でも交流できるように、関わる場や機会を意図的に増やしていきたい。</p> <p>・一人一人に合わせた丁寧な関わりをすることで、安心して過ごし、自分の思いをいろいろな表現の仕方でも出せるようになった。自分の思いを受け止めてもらえる経験から、友だちのことも知ろうとする姿へつながった。</p> <p>・地域ボランティアさんや福寿会さんと栽培活動を通じた交流を行った。温かく受け入れてもらえる経験から、人と関わる喜びを感じることができた。</p> <p>・中学生の保育体験や学びの一体化の音楽会で、地域の小中学生と交流を行った。始めは緊張していたが、関わることで小中学生のことを知り、身近な存在になった。音楽会では、小中学生の姿に刺激をもらい、子どもたちも力を発揮することができたよい機会となった。</p>	

重点目標 4	様々なことに挑戦しようとする力を育む	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ やってみたいくなる環境を設定したり、タイミングをみて誘ったりして、自ら取り組むことを大事にした。保育者や友だちと遊びを楽しむことで、「やってみたら楽しい」という経験ができた。また、初めてすることに苦手意識や不安がある子どもが「やってみよう」と思えるようにスモールステップで取り組めるようにした。楽しみながら取り組むことで、自信がついた。 ・ 5歳児は、友だち同士が刺激し合い、粘り強く繰り返し挑戦できる力がついた。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ 「やってみよう」と思えるようなわくわくする遊びができるように、その日の保育の振り返りを行い、環境設定の見直しや再構成、教材準備など、明日の保育の準備を日々行い、子どもが意欲的に遊びに関わる環境を整えていく。 ・ 園外活動、異年齢での交流の年間計画を立て、1年を通した活動を考える。地域とのつながりを大切にしていける。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 橋北こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	コミュニケーション力のある子どもの育成	4
主な方策 成果と課題	<p>・一人一人の子どもと目線を合わせ、顔いたり子どもの言葉を待ったりして関わるように心掛けた。言葉にならない表出から、子どもの思いを想像し共感したことで、「わかってもらえた」と子どもが感じられるようにした。そのことで、保育者との愛着関係や信頼関係が形成され、子どもの表現力も豊かになった。</p> <p>・時には自分の思いを頑なに表現し、相手の気持ちに気づき、話し合ったり譲ったりすることが難しいこともあった。まずは、一人一人の思いを丁寧に受け止めるようにした。そして、いろいろな思いがあることに気づけるよう、安心して思いを出せる関係づくりや雰囲気づくりに努めた。少しずつ遊びや生活の中で、相手の思いを聞こうとする姿が増えてきた。</p> <p>・子どもの興味や季節に合わせた絵本を活用し、気持ちを感じたり様々な言葉に触れたり、イメージを膨らませたりする機会を大切にしてきた。</p>	
重点目標2	子どもの姿・発達に応じた教育・保育の工夫	3
主な方策 成果と課題	<p>・クレパスやのりに興味を持った時には、大きな紙を用意し、やりたいことを思い切り楽しめる環境設定をしたことで、伸び伸びと夢中で楽しむようになった。今後も、道具や材料の使い方や片付け方について、子どもたちにわかりやすく行動につながるよう示していきたい。</p> <p>・一人一人の成長発達を考慮しつつ、子どもが満足して遊びを楽しめるように保育室のコーナー設定を見直したり、身体づくりの充実につながるようテラスにコーナーを設置したりして工夫をした。今後も継続して検討していく。</p> <p>・今、子どもが何を楽しんでいるか、どのようなイメージを持っているのかを保育者は探り、どのような設定や教材が有効かを考えるようにした。そのことで、子どもが自分たちで考え、工夫したり試したりする力も伸びてきた。今後も遊びの中で何を学ぶのか「ねらい」を職員間で共有し明確にしていくことで、よりよい援助につなげていきたい。</p>	
重点目標3	橋北小学校、中学校、地域との交流の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>・園周辺や隣の交流会館広場へ出かける機会を持ったことで、季節の移り変わりを感じたり、地域の方と挨拶を交わしたりできた。地域の方々へ職員自ら積極的に挨拶をするように心がけたことで、子どもがすすんで挨拶をする姿につながった。</p> <p>・道路事情の変更に伴い昨年まで利用していた横断歩道の使用ができなくなったので、近くの公園への散歩ルートの見直しを行った。子どもたちの発達と安全面に考慮し、実際に歩いて話し合いを重ねたことで、安心して散歩に出かけることにつながり職員自身が地域を知る機会となった</p> <p>・園外保育へ出かける機会を通して、広く安全な場所で開放感を味わい伸び伸びと身体を動かすことができた。次年度も計画的に園外保育を取り入れていくようにする。</p>	

重点目標 4	子育て支援活動の充実	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時には保護者と笑顔で挨拶をするように心がけ、どの職員も、園での子どものエピソードなどを積極的に伝えるようにした。今後も、園全体で一人一人の保護者と丁寧に関わり、保護者にとっても安心できる園づくりを目指していきたい。 ・保育参加を年2回実施した。園での姿を見てもらったり、親子で楽しく身体を動かす機会を提供したりした。 ・保護者との信頼関係を築き、子どものありのままの姿を伝えつつ、共に子育てができるようにコミュニケーションをとり、取り組んでいく。 ・子育て支援センターと在園児との交流を持ち、利用者の方々にはこども園のことや子どもの様子を知ってもらう機会となった。今後も内容を工夫しながら交流を継続していく。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長発達は様々である。遊びの内容や場所を子ども自身が選べる環境を整えたり、子どもが友だちと一緒に遊びを進めていく楽しさを味わえるように、保育者が教材を出すタイミングを図るなど援助の在り方を工夫していく。 ・夢中になったり試行錯誤したりする活動の中で、子どもたちは考えを伝え合い一緒にやり遂げた喜びを感じることが、コミュニケーション力の育成へとつながっていく。今後も楽しい活動の中で、相手の思いを聞く力や伝えようとする力の育成につながる経験を積み重ねていく。 ・クラスや学年の打ち合せを定期的に行い、子どもが主体的に遊び「やってみたい」と思える保育者の援助や環境設定について、取り組みの見直しと充実を図っていく。 ・課題点について、すべてに取り組むのではなく、ひとつひとつ取り組めることから確実に実施していくようにする。 ・園のビジョンについて、ねらいや内容について園内研修の中で話し合う機会を設けた。討議を深めることで職員の方向性に統一感を持つことにつながった。次年度も引き続き、こども理解を深め、学び合える職員集団にする。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 塩浜こども園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	健康な心と体の育成	3
主な方策	<p>・体づくりでは、集団遊び、サーキット遊び、固定遊具などに繰り返し挑戦することで、身体を動かして遊ぶことの楽しさや心地よさを感じてきた。友だちの姿を見てやってみよう、できるようになりたいという姿にもつながり、自ら体を動かして遊ぶ姿が増えた。</p>	
成果と課題	<p>・園外へ散歩に出かけ、歩く力や体力をつけることができた。年間を通して計画的に進め、異年齢での地域めぐりも加えながら継続して進める必要がある。</p> <p>・食育活動では、園の畑で育てる野菜を子どもと相談して決め、生長の過程に気付けるよう環境構成を工夫した。そのことにより、自ら野菜の様子を畑へ見に行き、水やりをするなど関心が深まった。園内で収穫した野菜を家に持ち帰ったことで、食への関心が広がった。</p>	
重点目標2	遊びを通した『学び（心がワクワクする）』の充実	3
主な方策	<p>・子ども一人一人が今何に興味を持っているのか考え、遊びが広がるように関わったことで、安心して自分の好きな遊びを楽しむ姿につながった。</p>	
成果と課題	<p>・子どもの姿やつぶやきから、やりたいという気持ちになる環境設定を意識してきた。保育者も子どもと共に楽しむことで、言葉のやり取りを広げていく。</p> <p>・保育者の見守る関わりを大事にしてきたことで、子どもが自分から動き出し、考える姿につながった。子どもたちが、自分たちで試行錯誤できる環境整備や教材について、職員間でディスカッションし充実させる必要がある。</p>	
重点目標3	豊かにかかわり合おうとする力の育成	3
主な方策	<p>・保育者が一人一人の子どもと向き合い、気持ちを受け止めたり、認めたりしていくことで、子どもが自分の気持ちを表現し、伝えようとする姿が増えた。そして遊びの中で、楽しい気持ちを友だちと感じ合い、やり取りの中で相手の気持ちを知ったことが、互いを認め合おうとする姿につながった。</p>	
成果と課題	<p>・楽しいごっこ遊びや集団遊びの中で、自然に異年齢の関わりが生まれ、言葉や気持ちのやりとりが豊かになった。園内の共有スペースを、遊びがにつながる場所として意識し、更に異年齢交流が充実するようにしていく。</p>	

2 改善方針

- ・日々の、低年齢からの発達を踏まえたエピソード交流の中で、遊びや保育環境の連続性を意識し、全職員で保育展開の充実につなげる。
- ・園内研修を計画的に進め、子どもたちがどのようなイメージを持って遊んでいるのか、どんなことを楽しんでいるのか、子ども同士をつなげる関わりについて学び合う。
- ・こども理解につながるエピソードを、打ち合わせなどでも話題にし、職員間の連携の充実や自分の保育の振り返りにつなげる。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 楠こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	○安心・安全な環境のもと、しなやかな心とからだを育てる	3
主な方策	・遊びの環境を見直し、保育室やホールを多目的に活用し、子どもの興味や関心・経験して欲しい遊びのコーナーを工夫して構成してきたことで、子ども自身がいろいろな遊びを自ら選び、取り組めるようになった。	
成果と課題	・身体を動かしたり、戸外で遊ぶ事、苦手な事や経験した事がない事などを自分で選ばない子に対して、保育者としてアプローチの仕方に迷うこともあった。一人一人につけたい力を明確にし関わる事が大切だと感じた。	
重点目標2	○人から愛され、自分を大事にし、互いに認め合う心を育てる	3
主な方策	・クラスの枠を超えて、色々な子どもと触れあう機会が増え、小さい子に対する態度や接し方を知ったり頼られる喜び、思いやる気持ちを味わう事が増えた。	
成果と課題	・主体性を大切にした保育の中で自分の思うように過ごせる事で、言葉や態度などのびのびと表現する姿が見られるようになった。 ・生活上での課題について、子どもと話し合い、対策を考える機会を持ったり、必要性を理解して当番活動などにつなげていけると良かった。	
重点目標3	○達成感、充実感、思考力、想像力、探求心を育てる	3
主な方策	・保育体制を検討したことで遊びの時間も保障でき、遊びの選択肢も増え、遊びを楽しめる環境により近づいた。	
成果と課題	・ランチルームを作ることで十分に遊びこむ時間や空間を確保できた。子ども自身、興味を持った事に夢中になって取り組み、やりきる事が増えた。	

2 改善方針

- ・ 苦手な事に対して「やってみよう」とチャレンジする気持ちを引き出し、保育者自身も主体性を持ち、保育の見直しをしていく。
- ・ 今年度の取り組みを見直し、何に困り何がやりにくかったのか等を具体的に挙げ、改善方法を考え、来年度の体制を再構築する。
- ・ 職員で考え合う風土が持続できるようにする。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 富田こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	思考力の芽生えを育むために	3
主な方策 成果と課題	<p>○子どもたちが「やってみたい!」「また明日もしよう」と思える環境構成を園内全体で考えた。教材が手に取れるなどすぐに遊び始められたり、遊びが継続できる環境設定を工夫することで、子どもたちが集中して遊び込む姿が見られるようになった。</p> <p>○遊び込む中で「もっとこうしてみたい、どうしたらできるんだろう?」という気持ち生まれ、保育者とともに遊びながら試行錯誤し、主体的に楽しい遊びになるよう取り組んだ。</p> <p>○学校教育ビジョンアンケートでは「身近にあるものや遊具で試したり、工夫したりして遊べるようになりましたか」の問いに対し、保護者の回答は「そう思う・おおむねそう思う」が100%であった。</p> <p>○地域人材を活用した体験型の活動を計画し、ジャンベ演奏、絵画、素話、運動遊びなど外部講師を招いて取り組んだ。初めて出会う活動や人との関わりを通して興味・関心を広げることにつながった。体験したことを日常の保育に生かしていくことで、さらに遊びを豊かにしていきたい。</p>	

重点目標 2	豊かな心とたくましい体を育むために	3
主な方策 成果と課題	<p>○園庭での遊び方について、子どもたちの様子や興味・関心を伝え合い、全職員で園全体の子どもたちを見守る姿勢を持つことを改めて共通理解できた。今までよりさらに安全に、それぞれが身体を動かして好きな遊びを楽しめる様子が見られるようになった。</p> <p>○保育参加では外部講師を招き、親子のふれあい遊びを行い、いろいろな身体の使い方を教えてもらった。家庭とともに身体作りを進めることができた。</p> <p>○四季に合わせた食材や行事に合わせた給食メニューなどに触れることで、「食」について興味・関心が持てるようにした。野菜が苦手な園児も一口、食べようとする姿につながった。</p> <p>○追いかけっこや体操、かくれんぼなど子どもたちの興味・関心がある遊びから、楽しく身体を動かすことができるようにしてきた。</p> <p>○かがむ、のぼる、ジャンプするといった様々な動きを取り入れたサーキットを設定したり、散歩に繰り返し出かけたりしたことで体力作りに繋がった。</p> <p>○学校教育ビジョンアンケートでは「体を動かす遊びに興味を持つようになりましたか、または体を動かして遊ぶことが好きになりましたか」の問いに、保護者の回答は「そう思う・おおむねそう思う」が98%であった。</p>	

重点目標 3	共に輝く子どもを育むために	3
主な方策 成果と課題	<p>○グループ活動や集団遊びなど様々な活動の中で自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりする機会を繰り返し作ってきた。思いがぶつかり合うことや気持ちが通じ合って心地の良い経験を積み重ねる中で、少しずつ自分たちで思いを伝え合い、遊びや生活を進めていく場面が見られるようになった。</p> <p>○子ども一人一人が安心して自分の気持ちを出し、「自分のことが大好き」と感じる事が出来るように、言葉だけでなく表情や行動から心情を読み取り、スキンシップをとりながら様々な子どもの姿を十分に認めていった。保育者も共に遊びながら友達と同じ空間で過ごすことで、心地良さを感じる事ができるようになってきた。</p> <p>○保護者アンケートでは、「先生や友達とかかわるうれしさや楽しさを感じていますか」の問いに「そう思う・おおむねそう思う」が100%であった。「自分の思いを表情や動作や言葉で表現するようになりましたか」の問いは98%であった。</p>	

重点目標 4	家庭、地域との連携、協働を推進するために	3
主な方策 成果と課題	<p>○鯨船保存会有志の方から、納涼祭に向け鯨船祭りの由来や祭りのやり方を学んだ。地域の祭りに親しみを持って参加することができた。その体験から、日常の遊びの中で祭りの歌を歌ったり、みこしを担ぐ真似をしたりして楽しむ姿がみられた。</p> <p>○小学生の鯨船の授業発表の見学をしたり、中学校の吹奏楽演奏を聴いたり、地域の散歩などを通して、地域の人や祭りなどに親しみを感じたりする機会になった。</p> <p>○様々な行事での子どもたちの様子を写真を入れておたよりを掲示するようにした。その時の表情や雰囲気、経験を通してどんな力がついたかなど写真を見ながら保護者とともに子どもの成長について話すことができた。</p> <p>○学校教育ビジョンアンケートの「お子さんは地域とかかわる機会がありましたか」の問いに、保護者の回答は「そう思う・おおむねそう思う」が96%であった。</p>	

重点目標 5	職員の資質向上のために	3
主な方策 成果と課題	<p>○継続的に幼児教育センターの訪問研修を受けたり、外部講師を招いたりして保育内容・環境構成を見直し、工夫してきた。子どもたちが主体的に遊びを進めていく姿からその中で何を学んでいるかを読み取り、次の保育に生かしていくことができた。訪問研修後にそれぞれの学びや考えを話し合う機会を設けたことで、職員全体の資質向上につながった。今後も取り組みの継続に努めたい。</p> <p>○エピソード記録を書き、他の保育者と話し合うことで、子どもについての理解を深めることができた。</p> <p>○多様な職種の職員が子どもたちに関わるにあたって、全体・職種ごと・学年別などの園内研修を持ち、エピソードを挙げながら子どもの見方・考え方を学び、自らの保育を振り返る機会を作ってきた。それぞれが学びを意識して取り組んでいくことができた。</p>	

2 改善方針

○日々の保育・遊びが行事に繋がり、あるいは行事が遊びの中へ広がる教育活動になるよう計画を立てる。

○身体づくりについて、散歩・サーキット遊び・固定遊具を使った遊び・鬼ごっこなどそれぞれの年齢・発達に合わせた活動を継続的に取り入れていく。1歳から5歳の発達を踏まえ、5年間を見通した計画を立てることで、学びや発達の積み重ねができるようにしていく。

○子どもの成長を喜び合える保護者との信頼関係を作っていく。園児・児童の姿を話し合い、課題を考え合い、地域と連携して取り組んでいく。

○子どもたちが楽しんでいる遊びをより豊かにするために、継続的に様々な素材を使って自由に物を作ることができる環境づくりを徹底していく。

○職員自身が教材や道具の使い方を研究し、子どもたちにそれぞれの道具や素材の使い方を知らせ、安全に使うことができる環境を整えていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 下野こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	健康な心と体づくりの充実	4
主な方策 成果と課題	<p>・発達に合わせ、戸外やテラスに様々な動きが経験できるようなサーキット遊びを継続して設定し、楽しみながら体づくりをするようにした。子どもの興味に合わせて設定を変えたりしながら年間を通して体づくりを行った。初めはぎこちない動きが見られたが、継続して行うことで、意欲的に取り組む子どもの姿につながった。</p> <p>・忍者ニンやサッカーなど、体を使う遊びの楽しさを感じられるよう外部講師を招いて体験活動を行った。好きな活動の中で自信をもって参加したり、その後の遊びに取り入れたりして楽しむことができた。</p>	
重点目標2	生活や遊びに主体的に取り組む、友だちとのかかわりの中で、自分の思いを表現し、伝え合う喜びを感じられる保育、教育を目指す	3
主な方策 成果と課題	<p>・一人一人が主体的に遊んだり生活できるよう環境を整えたり、子どもの興味に合わせて、いろいろな遊びの提供をしてきた。</p> <p>・一人一人が自分の思いを伝えたりできるよう、保育者との信頼関係や愛着関係を築くことを大事にしてきた。その中で、自分の思いを表現したり気持ちをコントロールする姿につながってきている。</p> <p>・クラス打合せでの事例検討や園内研修にて、保育者又は子どもの姿について人権の視点で振り返り保育の見直しに努めた。また、園内研修にて、エピソードを用いて討議を深め、保育者の言動の見直しをした。今後も研修を重ね、子ども理解に向けて保育の振り返りを継続していく。</p> <p>・友だちと遊んだり生活したりする中で、自分の思いを伝えたり相手の思いに気付いたりできるように、保育者が思いを受け止めたりともに考えるようにしてきた。また、具体的な場面を捉え、言葉や様々な表現方法で伝えられるようにしてきたことで、自分なりに相手のことを考えて行動する姿が見られるようになった。</p>	
重点目標3	特別支援保育・教育の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>・登降園時に子どもの姿を丁寧に伝え、保護者と共有するようになってきた。一人一人の思いを理解しながら丁寧に関わり、保護者とともに子どもの育ちについて考え取り組んできた。</p> <p>・日常の保育とともに行事などは、保護者の思いを十分配慮し、子どもが楽しく取り組めるよう職員間で話し合いを重ねるようにした。</p> <p>・外部の支援事業所や専門機関からの助言や研修での学びを保育、教育に活かせるよう努めていくようにしている。個々に応じた支援のあり方について今後も保護者とともに考え実践していきたい。</p>	

重点目標 4	子育て支援活動の充実	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・『幼児期の終わりまでに育てたい10の姿』や園目標を中心にクラスだよりや園だよりで遊びや活動写真を配信し、保護者に知らせてきた。また、その日の活動の様子を掲示し、子どもが楽しんでいる様子や活動を通して学んでいることを伝えるようにした。 ・保育参加と懇談会を実施し、保護者同士がつながるよう努めた。今後も園としての年間の保育・教育について、どのように保護者に伝え、理解につなげていくかを考えていきたい。 ・子育て支援センターの活動や催し物を計画的に実施し、親子で遊ぶことを通して楽しい時間を過ごしてもらえた。 	

2 改善方針

- ・今年度より「下野こども園」となり、幼稚園の園児との交流の方法や保育・教育内容の充実を図るため、具体的に話し合いを進めてきた。保育理念や、保育教育ビジョン等を共に考えることで、主体的な活動に向けての保育・教育の見直しを図るようにした。
- ・エピソード記述や園内研修を通して、こども理解や遊びの設定などを考えることができた。次年度も検討会や園内研修を継続し、主体的に遊べる環境設定や援助の仕方を考え、保育の振り返りに努めていきたい。
- ・保護者への自園の保育教育ビジョンの理解に向けて、啓発をあり方を検討していく。
- ・特別支援保育・教育の充実に向けて、専門機関と連携をとりながら、個々の困り感に対していろいろな遊びを通して関わり、支援していくようにする。

【様式1】

自 己 評 価 書

四日市市立 富洲原こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	遊びの充実を図る	3
主な方策 成果と課題	<p>○子どもの年齢や発達を意識しながら、子どもの興味や好奇心にあった遊びの環境が整えられるよう工夫してきた。遊びの継続とともに子どもの姿が変わってくるので、環境構成の再構成に努めた。タイミングを逃さないように今後もより良い援助に努めたい。職員間で子どもの姿を共有して共通認識のもと考え合えるようにしていきたい。</p> <p>○子どもがやりたい遊びを選び主体的に遊ぶことや、保育者が子どもたちの気持ちをくんで、共に遊ぶことを意識してきた。共通のイメージで表現して遊んだり、友だちと思いを出し合い自分たちで遊びを進めるようになった。既成の遊具だけでなく子ども自ら考えて作ったもので遊ぶようになった。環境は0歳から5歳の年齢を考慮し、全職員で検討し整備していきたい。</p> <p>○子どもの姿の中で、自信が持てなかったり、時には、相手がどう思うか考えることが難しいこともあった。子ども一人一人の思いを丁寧にくみ取り、子ども自らやってみようとする気持ちが育まれるよう援助したことで、友だちを応援する姿につながった。</p>	
重点目標 2	しなやかな心と身体づくりを推進する	4
主な方策 成果と課題	<p>○保育者との関係づくりを基盤に、子どもの思いを十分に受け止め、自分の気持ちを安心して出せるように関わり、意欲的に遊びだせるようにしてきた。</p> <p>○年齢や個々の発達に合わせて遊びのねらいを職員間で共有し、サーキット遊びや固定遊具等常設した環境で継続して遊ぶことで、やってみようとする子どもの姿が増え、体幹の育ちにつながった。保護者とともに身体づくりについて考えていけるよう、引き続きアピールの仕方について工夫していきたい。</p> <p>○リズム運動を継続して取り組み、外部講師を招いて縄跳びや鉄棒、跳び箱、ボール、サッカー等、体を動かして遊ぶ楽しさを教えていただき、保育の中で運動遊びを充実させる良い機会となった。今後も引き続き保育者も子どもとともに楽しむことを意識していきたい。</p>	
重点目標 3	人とかかわる力を養う	4
主な方策 成果と課題	<p>○職員同士が子どもたちの姿を伝え合い、共通意識を持ちながら子どもに関わるようにしてきた。保育者との信頼関係を基盤に、友だちへの興味・関心が深まり、友だちと過ごす心地よさを感じられるようになった。クラス内の友だちのふれあいだけでなく、異年齢児や様々な保育者との関わりへと広がっている。</p> <p>○子どもが、一人一人の友だちのことを知る機会を意識して持つようにしたり、どの職員もクラスを超えて子どもたちと関わることで、どの子も大切な存在としてともに育ちあってきた。園全体で、子どもの姿を共有して関わる事ができた。</p> <p>○自分の思いを聞いてもらう経験を積み重ねることで、相手の思いに気付くことが増えてきた。保育者は見守り、子ども同士で話し合ったり遊びを進める経験ができるようになってきた。今後も、子どもたちが安心して自分の思いを出せる環境づくりに努めていきたい。</p>	

重点目標 4	家庭・地域との連携を図る	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○普段から保護者との会話を大切にし、相談しやすい関係となるよう努めた。保護者の気持ちや意見に寄り添い、様々なことを考え直したり確認したりする機会とした。エピソードや写真等視覚的なものを交えて日々の子どもの姿を具体的に伝え、成長を喜び合うことを大切にしてきた。伝え方については今後も工夫していきたい。</p> <p>○散歩で地域の方との出会いの際に挨拶をすることや、地域の行事に参加し交流を深めてきたこと等を通して、子どもたちが地域の方に見守られていると感じられるように意識した。地域の方との交流を喜び、子ども自ら積極的に関わる姿も見られるようになった。</p> <p>○今後も写真掲示やInstagram等で、保護者や地域の方に園のことを知ってもらう機会を継続して行っていく。</p>	

2 改善方針

○子どもが主体的に遊ぶことを、実際に保育をする中で具体的に確認しながら、より良い保育を目指して進めていきたい。

○遊びや身体づくりは子どもとともに楽しみながら継続していくことが大切である。今後は、0歳児からつながりのある保育を実践していく。また、昔ながらの伝承遊びを取り入れる工夫も考えていきたい。また、散歩は一年を見通して計画を立てるようにしていきたい。

○どのクラスも子どもと保育者との関係を基盤に人とのつながりが深まってきた。今後も園全体の職員間も連携を深め、保育の資質向上に努める。

○今後も家庭・地域とのつながりを大切にし、保護者と子どもの成長を喜び合い、先を見通した話ができるよう信頼関係を築いていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 神前こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	遊びこむ環境作り	3
主な方策 成果と課題	<p>子どもたち一人一人が今、何に興味があるのか、何を楽しんでいるのかを保育の中で保育者が感じ、一緒に遊び、楽しさを共有することを大事にした。身近な大人と一緒に遊びを楽しむことが子どもたちの意欲的な姿につながっていることを確認しあった。</p> <p>子どもたちが主体的に遊ぶ姿を目指して、遊びの環境の見直しや素材の充実を心がけた。保育者も主体的に遊び、子どもたちが考え、工夫しながら遊ぶ姿から様々な学びにつながっていることを保護者にも発信した。子どもと保育者の主体がバランスよく共存した共に学び合う関係性を大切に共主体を日々の保育の中で進めていきたい。</p>	
重点目標 2	コミュニケーション力を育む	4
主な方策 成果と課題	<p>温かい雰囲気の中で笑顔で目と目を合わせてやりとりすることを職員全員で心がけ、園での生活で”話すこと”を大切に、互いの思いを知り合う機会を作ってきた。</p> <p>まずは「話したい」と思える存在に保育者になれるよう、子ども一人一人を理解すること”聴くこと”を丁寧に行った。また、安心して自分の思いを伝えているのか、ということにも目を向け、言葉だけでなく視線や仕草、表情などで思いを伝えている子どもの思いに気づき、受け止めることも意識した。引き続き、話を聞いてもらう心地良さや安心して思いを伝えることを大切にしていきたい。</p> <p>子どもは人を求める力を一人一人持っており、私たち大人が関わり、愛着関係ができることで自分から人へ向かう力が発揮されていくことを日々、保育を進める中で実感している。今後もこのことが子どもを大事することにつながるという意識を持ち、子どもと向き合っていきたい。</p>	
重点目標 3	健康な心と体を育む	3
主な方策 成果と課題	<p>園庭の使い方等を工夫し、どの年齢の子も全身を使ってやりたい遊びが十分できるように配慮した。朝の体操やサーキット遊び、縄跳び、集団遊びなど、保育の中で大切にしたいことや子どもにつけたい力を確認し、繰り返し遊ぶ中で子どもたちのやってみようという思いにつなげた。</p> <p>園外への散歩では、同じ場所へ繰り返し行くことで変化に気付いたり、身近な自然に親しみ季節を感じたりして、豊かな感性を育むことにつながった。今後も体験する中で感じる機会を積極的に作っていきたい。</p> <p>畑での栽培活動や自分たちで育てたものを皆で食べる活動を通して、食への興味、食と身体の関係性につなげた。また、保護者にも健康な体づくりとの関係性について発信した。職員間で命を育てることや命をいただくことについて確認し、今後も子どもと共に命の大切さについて考える機会にしていきたい。</p>	

重点目標 4	人権保育の推進を図る	4
主な方策 成果と課題	<p>人権保育推進保育教諭が中心になり、自分のことを語り合い、見つめる機会を作ってきた。このことが日々の保育や子どもを尊重することにつながることを確認しながら職員全体で保育を進めてきた。</p> <p>「自分が大切にされている。愛されている」ということを子どもたちが実感するために、クラスの中での居場所や子ども同士の関係など、園内研修や保育実践を通して考え合ってきた。また、なかまづくりを進めていく中で子ども、保護者、保育者の思いやねがいは何か、どのようになかまづくりを進めていくか等、人権の視点を持ちながら話し合ってきた。</p> <p>人権プラザの指導主事と連携を取り、将来を見据え、今つきたい力は何か、そのために何を大事にするか引き続き考えていきたい。</p>	

重点目標 5	家庭や地域と繋がり、将来に繋がる生活力を育む中で学びに向かう力の基礎を培う	3
主な方策 成果と課題	<p>保育参観や運動会、発表会など、子どもたちの姿を見てもらい、成長を喜び合ういろいろな活動が実行できた。</p> <p>また、地域の方々との交流も少しずつ増え、みかん狩り、絵本の読み聞かせ、文化祭での舞台発表等、様々な方の協力のおかげで貴重な体験ができた。子どもたちが地域の良さを知り、地域の方に大切にされていることが実感できたことで、将来に向かって意欲的に生活していこうとする姿勢の基礎を培うことができた。実体験から学びに繋がる機会を今後も大切にしたい。</p>	

2 改善方針

・園内で、子どもの主体性を大切にした豊かな体験と遊びの充実や、身近な環境や人に親しみ自分らしさを発揮して活動する支援や関わりを学び合うことを大切にしてきた。その中で、子どもたちが活動を通して体験したことを再現して遊ぶことが、主体性を大切にした遊びの充実につながることを確認しあった。愛着形成とあそびの人的・物的環境の充実を継続する中で子どもたちの育ちを援助し、0歳からの系統立てた保育を今後も実践していく。

・散歩、栽培、飼育など自然を意識した取組を引き続き行い、園周辺の豊かな自然により触れていく活動を今後も考えていく。

・一人一人が大切にされていると感じ、互いを認め合い大切にできる保育実践を目指し、尊敬し合えるなかまづくりをしていく。子どもの姿を様々な方向から見つめる中で子ども理解を深めること、子どもの権利が守られていることにも着目し、園の保育の充実を図っていく。そのためにも職員間でコミュニケーションを取り合い、連携し合うことを意識し、同僚性を高め職員集団がチームとなって取り組んでいく。

・保護者・地域とのつながりを大切にし、保護者と共に子どもの成長を喜び合い、課題についても考え合えるよう、信頼関係を築いていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 保々こども園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	夢中になって遊ぶ《学ぶ》教育・保育内容の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>・保育者が子ども達と共に遊びを楽しみながらイメージの共有に努め、遊びに見合う素材や道具と一緒に準備をするようにした。子ども達と一緒に遊びを進めたり工夫したりして、継続して楽しむことが遊びの充実につながった。今後も身近な自然物や様々な素材を遊びに取り入れて魅力的な環境づくりをしていきたい。</p> <p>・保育者自身が子どもと丁寧に関わり、気持ちを受け止めていけるようにした。また、子どもと共に思い切り遊びを楽しみ遊びこむようにしたことで、子どもの内面により近づくことができた。今後も共に遊び「こども理解」に努める保育者であり続けたい。</p> <p>・広い園庭や豊かな自然を活かして遊んだり、子ども達の会話が弾みイメージが広がっていくような遊びを工夫したりして、全身を使って思い切り遊びを楽しめる環境づくりを子ども達とともにやってきた。今後も継続して豊かな環境の工夫に務めたい。</p>	
重点目標 2	健康で安全・安心な生活の保障	4
主な方策 成果と課題	<p>・今年度は家庭訪問や面談などを必要に応じて積極的に行い、家庭との連携を図ってきた。子ども達が見せる様々な行動や姿は、必ず理由があることを心にとめ、今後も家庭や専門機関との連携を図っていききたい。</p> <p>・手洗い・うがいは、感染症防止や自分の健康を守るために必要であることを折に触れて知らせてきた。『早ね・早起き・朝ごはん』も呼び掛け、生活リズムの定着や排泄自立に向けて子ども達と取り組んでいる。家庭にも必要性を知らせ、さらに心地よい挨拶の交わし合いも併せて大人が模範を示し、今後も取組を進めたい。</p> <p>・楽しみながら様々な身体の部分を使う経験ができる遊びを意図的に取り入れた。体験型幼児教育活動事業の中で身体を動かす活動を中心に計画・実施したことで、子ども達の意欲も高まり積極的に体を動かして遊ぶ姿につながった。</p> <p>・保育者や友だちと一緒に散歩に出かけたり、思い切り体を動かして遊んだりすることで心が豊かになり、心身ともにほぐれていく様子が感じられた。</p>	
重点目標 3	特別支援教育・保育の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>・月1回の研修の中で悩みや疑問、実践の検討を重ねたり、研修会で学んだことを職員間で還流し、保育に活かしてきた。また、実践後、振り返りを行い改善に務め取り組んできた。職員同士で学びを共有して保育に生かすことは、職員一人一人の姿を多面的・肯定的にとらえ、モチベーションアップにつながった。</p> <p>・一人一人が過ごしやすい環境づくりを心掛け、発達や興味に合った玩具を置いたり、落ち着ける空間の確保を行ってきたことが、じっくりと遊びを楽しむ姿につながった。</p> <p>・園での子ども様子を丁寧に伝え家庭との連携を重ねている。引き続き「子どもにとって」という視点で家庭との対話を重ね、先を見据えた支援につなげたい。</p>	

重点目標 4	小・中・高・プラザ・地域・保護者との連携と協働	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>・保護者とのコミュニケーションを大切に、共に子どものより良い成長を願い、情報共有しながら子育てや保育を進めていく。また、保護者の言葉の奥にある思いに寄り添っていけるように、保育者自身の問い返しもし続け、多くの人との語り合いを継続する。</p> <p>・保々地区「育ちのプログラム研修」の一環として公開保育・授業・事後研修を行った。「6視点」を基に、子どもの姿やエピソードをグループで討議することで、子ども達の今後の成長を見通した話し合いができた。この学びを教育課程の中に位置付け、子ども達の確かな発達保障につなげる。充実した討議ができるよう工夫をし、小・中と連携しながら探っていきたい。また、この研修の学びを生かし、子ども達にどんな力をつけていくことが必要かを考え合っていきたい。</p>	

2 改善方針

- 「こどもの主体性を育む」という視点において、日々の保育とともに行事のあり方についても保育者が議論を重ねて改善している。豊かな遊びを通して様々な力が育まれる保育を展開できるように、職員の活発な議論を重ね園全体の保育力の向上につなげたい。
- 基本的な生活習慣の確立に向けて気になる子どもの姿（朝食をとらないことによる無気力や集中力のなさ、視力の低下、睡眠障害など）に対して、家庭への啓発（たよりなど）をしたり、子どもの姿を知らせ保護者とともに改善策を考えていく。
- 特別支援教育の充実のため、積極的に研修に参加し学びを保育に生かしたり、振り返りをし保育の改善に役立てた。今後は、園内研修で事例検討を重ね職員集団の保育力の向上を目指していく。また、日々の子どもの姿をエピソードや画像を交えて丁寧に保護者に伝え、子どもにとってより良い支援の在り方を共に考え合う。
- 引き続き育ちのプログラムをもとに各校、園、地域、保護者との連携を重ね18年後を見据えた保育教育の創造、人権保育の推進を行っていく。